

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方策	学校関係者評価	学校関係者評価
確かな学力	A	1. 生活科・総合的な学習の時間の在り方を研究することで子どもの能力資質を養う	1. 計画的な研究および授業研究を行うことで児童の育成分を図る	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり ①全学年が講師を招聘し、探究的に学ぶ授業を公開を行い、授業研究する(7回) ②生活・総合的な学習の時間の楠目小学校の考え方をまとめる ③学びを地域へ発信する(各学年)	○生活・総合的な学習の時間の楠目小学校の考え方をまとめることができた(研究集録) ○学びを地域へ発信できた(各学年)	○1. 全国学力・学習状況調査結果(全国平均比) 国語A+2.2P、国語B+10.5P、算数A+14.4P、算数B+6.1P ○高知県学力定着状況調査および標準学力調査は結果まち	○これまでの学力向上の手だてを継続していく	・楠目小学校教育の特徴である高学年での成績UPが実現できている。 ・留学生を交えて外国語を学ぶ機会に恵まれ、外国語を「楽しい」と感じている。 ・生徒自身が主体的に学ぼうとする力をがもっと必要に感じる。 ・個々の能力や特性に応じた指導を研究してほしい。 ・保護者の理解を深めていく努力が必要に思われる。 ・目標に対する評価・改善策をより明確にしてほしい。	S ・ A ・ B ・ C
		2. どの子どももわかる・できる授業スタンダードを確立させる	2. 教員の指導力が向上する ・UDの視点を持つ授業スタンダードの確立 ・学習支援の手だての充実	子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など) ①全学年が講師を招聘し、探究的に学ぶ授業を公開を行い、授業研究する(7回) ②授業スタンダードを意識した授業を行う。 ③全国学力・学習調査と高知県学力定着調査後は迅速に結果分析し、改善策を実行する	○全国学力・学習調査結果が全国平均値+3p以上、高知県学力定着状況調査結果が高知県平均値+3p以上 ○授業がよくわかる(肯定児童90%以上)	○肯定児童98% ○UDの視点に立つ授業にODの視点に立つ授業における指導方法の工夫改善香美市平均以上33/47項目 ○UDの視点に立つ授業の工夫改善の交流研修 ○支援会議等の充実(31回)	○UDの視点に立つ授業スタンダードの確立をめざす。特に情報伝達の工夫と児童の学習の躓きに関わる支援について改善する(情報の伝達) ○支援会、ケース会は継続して行い、そこで学んだことを他の児童支援にも活用する		
		3. 外国語教育の指導の充実を図る	3. 3, 4年外国語活動(35時間) 5, 6年外国語教育(70時間)実施しながら、完全実施ができたこととする	学校全体で予習・復習(宿題)の質と量を高める取組 ①外国語の授業研究を行う ②外国語の研修会に参加し、資質向上を図る	○家庭学習の在り方を工夫する ・児童が自己決定する自主学習の在り方を指導する	○家庭学習の実施時間(児98%、保84%) ○予習2学年で向上 復習4学年で向上 ○親子読書の取組を行い、親子で読書を楽しむことができた	○生活リズムチェックカードを活用し家庭と連携していく。 ○家庭学習のサイクル化をより進めていく		
豊かな心	A	1. 子どもたちの豊かな心の醸成	1. 特別の教科「道徳の時間」の円滑な実施ができる ・全学級授業公開②評価の在り方研究	1. 特別の教科「道徳の時間」の充実 ①道徳参観日の実施②評価の在り方を研究する ③「家庭で学ぶ 高知の道徳」の活用	○自尊感情(肯定的評価85%以上) ○自分のすんでいるところ(香美市)が好きである(肯定的評価85%以上) ○暴力行為発生率(0件) ○いじめ解決(100%) ○不登校発生率が高知県平均値以下となる ○QIU値(承認)が1学期より2学期に向上する	○自己肯定感(③97.5%、④92.6%) ○香美市が好き(⑤97.5%、⑥98.1%) ○道徳調査(全ての項目で90%以上) ○暴力発生率(0件) ○いじめ認知13件(解決100%) ○不登校児出現率(30日以上欠席者なし見込) ○QIU値全ての学級で向上	○自己効力感を高める取組を継続する ○いじめ解決100%継続する ○ネットの使用方法について指導する ○きめ細やかな支援に関わる項目の評価は職員によりばらつきがあり、1年間を通して楠目小学校の考え方を継続させる研修を行う必要がある。	・不登校については、きめ細やかな支援の継続が望まれる。 ・いじめの芽は、小さいうちに対処し、大きないじめには至っていないが、よりいじめに対する感性を高めることが必要ではないか。今後も対策を取り続けていくことを期待する。 ・インターネットの正しい使い方についての学習は今後も継続が望まれる。(SNSも) ・学業以外の支援者(SSW)の常設により、教師の負担の軽減を希望する。 ・道徳教育の取組について、「テーマ」(①親切、思いやり②相互理解、寛容)に取り組むことで成果を上げている。 ・次年度の「テーマ」に「学校内外での挨拶」を加えてはどうか。	S ・ A ・ B ・ C
		2. 支持的であたたかな学級集団を育成する	2. 支持的であたたかな学級集団づくりができる ・支援会議の年間計画による定期開催による情報共有と支援方法の共有と関係各位と協働し、取り組む	2. 相手意識のある、あたたかい集団作り ①異学年交流の推進する(異学年交流、保幼小交流、小中交流、小高交流等) ②あたたかい集団作り ③専門機関との連携した児童支援を行う	○暴力行為発生率(0件) ○いじめ解決(100%) ○不登校発生率が高知県平均値以下となる ○QIU値(承認)が1学期より2学期に向上する	○きめ細やかな支援に関わる項目の評価は職員によりばらつきがあり、1年間を通して楠目小学校の考え方を継続させる研修を行う必要がある。			
健やかな体	A	1. 健やかな体づくり	○健やかな体の育成を図る	1. 子どもが体を動かすことが楽しい体づくり ①外遊びの奨励 ②地域と連携したスポーツへの参加を奨励する(クラブ活動等)	○スポーツテストC評価以上の割合が高知県平均値以上(特に学年の評価D、Eの減少) ○相撲大会(2回)、びつたりマラソン大会、駅伝大会等への参加約150名 ○早起き(全校平均64%) ○朝食(全校平均99%) ○メディアコントロール2時間以内(82%達成) ○すくすく相談できめ細やかな支援ができた(のべ14回)	○スポーツテストD、E判定はH28年度より6.5%減少(H28:18.3%→H29:11.8%) ○相撲大会(2回)、びつたりマラソン大会、駅伝大会等への参加約150名 ○早起き(全校平均64%) ○朝食(全校平均99%) ○メディアコントロール2時間以内(82%達成) ○すくすく相談できめ細やかな支援ができた(のべ14回)	○体力向上と地域協働のスポーツテストの取組は継続する ○児童の自主的な参加を進めるとともに、地域、保護者のスポーツ活動への参加をお願いし、協働して行えるように努める ○「早ね・早起き・朝ごはんで元気づけよう!」の取組を継続する。	・全体としては向上しているが、結果としてD,Eが増加していることへの対策を継続してほしい。 ・対外的なスポーツへの参加が、自主的に取り組まれていることは評価できる。 ・生活習慣としての「早起き」には課題が残るが、朝食は、完全に近い成果を上げている。家庭との連携がうかがわれる。 ・メディアコントロールにも成果が出始めている。今後の継続に期待。	S ・ A ・ B ・ C
		2. 「生きる力を育む」基本的生活習慣の確立	○基本的生活習慣の確立をめざす	①生活リズムチェックカード活用による基本的生活習慣の確立を図る(生涯スポーツへの基礎を育成する)	○メディア視聴時間2時間以内(75%)				
保護者地域との連携	A	1. 香美市の豊かな教育資源を生かした探究的な学習の推進	○H30年よりのCS開始に向けた準備ができる ○香美市の教育資源を活用した生活・総合的な学習の時間が行われている	1・H30年度からCSとして運営できる ①CSについて家庭、教職員、地域が理解できる ②H30年度から地域協働学校本部の年間計画が作成できており、H30年から実施できる準備が整う 2. 探究的な学習の推進 ①香美市の教育資源を活用した学びを地域へ発信する	○H30年度にCSが開始できた ・運営できるための準備が整い、CSが運営できた ○香美市の教育資源を活用した学びを地域へ発信できた(子どもの姿で報告)	○CS ・CSの運営組織、運営委員は決定 ・リーフレット作成中 ・保護者支援(42%) ・支援者のべ約300人 ○研究について(作成中) ○学びの発信 6年「ネギトン井」の取組 6年 エネルギー新聞・リーフレット作成 5年「香美市森上げ隊」の取組	○CSを円滑に運営する ・年間計画の確認 ・CSの活動内容の周知(リーフレットを用いて保護者、地域) ・協力者の増加(特に保護者) ○H31年度生活・総合的な学習研究発表会(四国大会)に向けて研修会を行う ○発信はこれまで通り継続する	・特にH30年度にCSとして運営が開始できたことは、第1歩として評価できるが、広く、多くの人が参画できるように努力が必要。 ・学校、PTA、地域学校協働本部との連携をもっと密にしないと地域の力を吸い上げることは難しい。 ・香美市の豊かな教育資源を生かした探究的な学習が、全学年で実施できたことは、評価できる。	S ・ A ・ B ・ C
		2. 子どもの自立をめざす食育の推進	○自らの安全に対する意識を高めるとともに安全な行動が取れる児童の増加 ○子どもの自立を図る食育の推進(自分で食事を作ることができる) ○食と健康を関連させた教育を行う	①自分の命を守る安全教育の推進 安全プログラム6時間以上実施、避難訓練3回以上実施、その他関係機関と連携した安全教室実施 ②子どもの自立を目指す食育の実施(子どもが自分で炊飯、味噌汁づくり、自分で計画し自分で作るお弁当づくり) ③具たくさん味噌汁や出汁利用による減塩をめざす	①安全教育の確実な実施 ○安全プログラム授業6時間以上実施 ○避難訓練3回以上実施 ②子どもの自立をめざす食育の推進 ○自分で朝食を作る(5年生以上100%) ○自分でお弁当を作る(6年生100%)	①安全プログラムの実施 ○授業6時間(100%) ○避難訓練(3回済) 今年度は消防団の活動紹介も取り入れて行うことができた ②自立をめざす食育の推進(味噌汁5年100%) (弁当6年計画進捗100%) ③朝ごはん摂取(99%) 朝食で野菜摂取(中学年49%、高学年53% 高知県平均約25%)	○防災訓練を地域とともに行うなど地域との連携が必要である ○自立をめざす食育の継続 ・自分でご飯を炊き、みそ汁と作る ・自分で計画し、自分で作るお弁当づくり ○健康と食を考える取組。 ・なぜ朝食が必要か ・塩分計の活用で客観的に塩分濃度を知る。また、塩分について考える。		
命	A	1. 安全教育の推進	○自らの安全に対する意識を高めるとともに安全な行動が取れる児童の増加 ○子どもの自立を図る食育の推進(自分で食事を作ることができる) ○食と健康を関連させた教育を行う	①自分の命を守る安全教育の推進 安全プログラム6時間以上実施、避難訓練3回以上実施、その他関係機関と連携した安全教室実施 ②子どもの自立を目指す食育の実施(子どもが自分で炊飯、味噌汁づくり、自分で計画し自分で作るお弁当づくり) ③具たくさん味噌汁や出汁利用による減塩をめざす	①安全教育の確実な実施 ○安全プログラム授業6時間以上実施 ○避難訓練3回以上実施 ②子どもの自立をめざす食育の推進 ○自分で朝食を作る(5年生以上100%) ○自分でお弁当を作る(6年生100%)	①安全プログラムの実施 ○授業6時間(100%) ○避難訓練(3回済) 今年度は消防団の活動紹介も取り入れて行うことができた ②自立をめざす食育の推進(味噌汁5年100%) (弁当6年計画進捗100%) ③朝ごはん摂取(99%) 朝食で野菜摂取(中学年49%、高学年53% 高知県平均約25%)	○防災訓練を地域とともに行うなど地域との連携が必要である ○自立をめざす食育の継続 ・自分でご飯を炊き、みそ汁と作る ・自分で計画し、自分で作るお弁当づくり ○健康と食を考える取組。 ・なぜ朝食が必要か ・塩分計の活用で客観的に塩分濃度を知る。また、塩分について考える。	・安全教育の推進については、授業で100%、避難訓練4回達成。課題として残るのは、地域とともに行う防災訓練。 ・子どもの自立を目指す食育の在り方を推進、5年生、6年生では自分で作れる子供が育っている。今後は、よりおいしく、上手になることを期待している。 ・給食の残食の低下、朝食摂取率98%と家庭と連携して効果を上げている。 ・地域と連携した食育の推進、野菜の収穫、絵本と実際の食べ物をつなげる学習も効果を上げている。 ・食の安全に対する知識も与えてほしい。例えば、アレルギー、食中毒、着色料、添加物など。	S ・ A ・ B ・ C